

令和5年度 日野市立大坂上中学校経営重点計画 自己評価シート

令和6年3月公表

★学校教育目標	○よく考え進んで学ぼう ○思いやりの心を持ち他につくそう ○心身を鍛え全力でやり抜こう	★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン）	<p>【めざす児童・生徒像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自ら学び、考え、何事に対しても主体的に取り組む生徒 ②豊かな心を持ち、決まりやマナーを守り社会のために役立とうとする生徒 ③学校行事、生徒会活動、部活動などを通して心身を鍛え、最後までやりぬく生徒 ④異校種の学校及び地域の活動に協力ができる生徒 <p>【めざす学校像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①一人一人の生徒を大切にし、鍛え、可能性を伸ばす学校 ②心を豊かに育み、規範意識を持って社会に貢献できる生徒を育てる学校 ③生徒同士、生徒と教員が相互に信頼する温かい学校 ④異校種及び地域との連携を大事にする学校 <p>【めざす教師像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生徒とのコミュニケーションをしっかりと取り、信頼関係を構築できる教師 ②生徒の心の豊さを育み、規範意識・人や社会への貢献の大切さを教え、実行させる教師 ③生徒の心身を鍛えるための指導法の工夫や努力を惜しまない教師（校内OJTの活用） ④生徒のために、学校内外で連携・協力をして教育活動を行う教師 	<p>* 教育活動の基本により【よい学校】づくりを推進し、教育目標が目指す生徒像、教師像、学校像の具現化を目指す。</p> <p>○生徒が安定して生活できる学校 ・あいさつが聞こえる学校・思いやりと心ある言葉遣いができる学校・環境が美しい学校</p> <p>○生徒の主体性・自主性を育む学校 ・自ら学ぶ力の育成 ・自律力、自治力の育成 ・生徒会活動の充実</p> <p>○生徒が生き生きと学び、活動する学校 ・生徒が自ら学ぶ学校 ・活力と気力ある学校 ・すべての生徒が登校できる学校</p> <p>○教職員が明るく生き生きとして、お互いに切磋琢磨しながら教育活動に取り組める学校 ・校内OJTを充実させ、お互いの強みを共有し教育活動を充実させる</p> <p>○業務の効率化、外部人材の活用等により働き方改革を進める。</p>

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
いのち	命の尊さを学び思いやりの心を育成する	自他の生命を尊重し、より良い人間関係を築くことのできる教育を推進する	全ての教育活動を通して「生命尊重」の精神を育てる。 また、道徳の授業を核として「考える力」の涵養を図り、人間としての生き方についての学習を深め、道徳的な実践力及び、思いやりの心を育てる	4	95%以上の教員が道徳の実践力や思いやりの心を育てたと回答	4	95%以上の生徒が「思いやりの行為ができた」と回答	コロナや震災などで命を失うことを報道等から知ることが多い今だからこそ、どう生きるかを生命尊重の視点から今後もしっかりと生徒さんへ伝えていってください。 日々の生活が多くの方々の支え合いや助け合いで成り立っていることをご指導願います。	・道徳科の授業を中心に、教育活動全般をとらえ、生命尊重について指導を重ねてきた結果、より良い人間関係を構築することができ生徒は安定した校内生活を営むことができた。 ・指導内容や指導方法等をさらに改善し、生徒の心の姿に迫ることのできる指導を展開する。
				3	90%以上の教員が道徳の実践力や思いやりの心を育てたと回答	3	90%以上の生徒が「思いやりの行為ができた」と回答		
いのち	命の尊さを学び思いやりの心を育成する	自他の生命を尊重し、より良い人間関係を築くことのできる教育を推進する	各種アンケートを通し、安心安全な学校生活を保障するとともに、すべての生徒が充実した学校生活を送ることができる教育環境の整備に努める	4	95%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答	4	95%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない	最近の大坂上中学校は、落ち着いているように感じる。先生方も指導が大変だとは思いますが引き続き生徒一人一人と向き合った指導をお願いします。 生徒一人一人の意見や発言を大切にできる雰囲気づくりと共に、多くの意見を共有できる授業をお願いします。	・各種アンケートの実施と結果分析による生徒対応を行ったことにより問題行動の早期発見早期対応が可能になり、生徒にとって安心安全な校内環境を維持することができた。 ・いやな思いをする生徒またいじめの発生がないよう、教職員が一丸となって生徒指導を展開する。
				3	90%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答	3	90%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることはない		
学び	確かな学力の定着を図る	学習指導要領に基づく適正な教育課程の編成・実施及び授業と評価の一体化を推進する校内研究を充実させる	言語活動・話し合い活動を充実させるとともに、ICT、タブレット活用させることで生徒による自主的な学習活動を展開する	4	80%以上の教員がUD化された授業を実施し、授業改善に努めたと回答	4	80%以上の生徒が「授業が分かりやすくなった」と回答	タブレットの使用は、学習効果を上げるうえで重要だと思うが、実物や体験を通して得られる知識や感動、感覚の必要性を大事にしてほしい。 今までにない新しい教育環境の中でさらに学力を伸ばしていってほしい。 デジタル・アナログ双方の良さを活用していただきたい。	・それぞれの教科でクロームブックなどを活用して学習活動を推進することができた。 ・話し合い活動に消極的な生徒がいるように感じる。今後も学習や体育祭などの行事において元気に学んでいけるよう支援体制の充実をお願いしたい。
				3	70%以上の教員がUD化された授業を実施し、授業改善に努めたと回答	3	70%以上の生徒が「授業が分かりやすくなった」と回答		
学び	特別支援教育の充実を図る	特別な支援を必要とする生徒の実態を的確に把握し、校内外にお支援体制を整備し、個に応じた支援を進める	校内委員会を定期的に開催することで生徒の実態を共通理解し共通実践を図る。管理職・各学年に配置した特別支援コーディネーター・SC・養護教諭・家庭と子供の支援員との連携により、生徒や家庭を支援し、関係諸機関との相談・支援体制を整える	4	90%以上の教員が支援委員会にあげた生徒の実態把握ができ指導に生かされた	4	90%以上の保護者が、学校は子供の支援について保護者と話す機会を設けている	10組の生徒に限らず、個別に指導・支援が必要な生徒が増えているように感じる。今後も学習や体育祭などの行事において元気に学んでいけるよう支援体制の充実をお願いしたい。 関係機関との連携をお願いします。	・校内委員会において生徒の情報交換が円滑に行われ、生徒個々の情報共有ができたことにより、学年の枠を超え組織的な生徒対応を図ることができた。 ・不登校生徒の対応をさらにきめ細かくし、多角的な指導を実施することによって学校復帰を目指す。
				3	80%以上の教員が支援委員会にあげた生徒の実態把握ができ指導に生かされた	3	80%以上の保護者が、学校は子供の支援について保護者と話す機会を設けている		
地域	小・中連携教育の充実を図る	小・中連携教育の取組を深め、義務教育9年間の連続性を持たせ、生徒を育成する 日野台高校と連携し、SDGsの取組みを充実させる	小・中教員による教科・領域の研究授業・出前授業・協議会等を通し、教科や生活指導の連携を図り、小中連携教育を推進する 生徒会を中心に中高で連携したSDGsの取組みを推進させる	4	90%以上の教員が計画通り、小中連携の取組みができた	4	90%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができた	中学校への進学を機に、不登校傾向だった生徒が登校への意欲をもつことが多くあり、小学校との連携は良いことだと思う。 高校との連携も、義務教育を卒業し、生徒自身が将来を考えるうえで重要であると思う。	・日野台高校生徒会と連携しSDGsに取り組みすることができた。 ・SDGsの取組みを、生徒会が中心となって校内に広めていくことで生徒一人一人に考える力を育成していく。 ・小学校との連携を継続、推進させる。
				3	80%以上の教員が計画通り、小中連携の取組みができた	3	80%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができた		
地域	地域・社会との連携を深める	学校と地域・社会との相互の交流を活性化させる	教育計画の中に、地域人材や事業所等の活用を位置付けるとともに、生徒へ地域参加への呼びかけや情報提供の機会を増やす。 また学校Webサイトを通し、広く地域に学校教育の様子を発信する	4	90%の教員が計画通り実施した	4	90%以上の保護者が生徒と地域とのつながりを実感した	地域人材や団体また施設など地域力がもっと利用できると思います。 我々もできる範囲でサポートしていきたいです。 育成会などの地域との連携を図り、中学生が地域の見本となれる機会をお願いします。	・外部講師の招聘、社会協賛福祉会との連携や学習支援員の活用など地域力を生かし効果的な学校運営を展開することができた。 ・安定した人材活用や団体との連携を推進するために、教育課程への位置づけを明確にし具体的な実践を推進していく。
				2	70%以上の教員が計画通り実施した	2	70%以上の保護者が生徒と地域とのつながりを実感した		
				1	計画通り実施したと回答した教員は70%未満	1	小中連携の取組を後の指導に役立てることができた		
				1	計画通り実施したと回答した教員は70%未満	1	生徒と地域とのつながりを実感した		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。